

## 萩にあしあと残そうよ

「止まぬコロナと明けぬ梅雨」

令和2年(2020)  
8月1日発行  
—第11号—  
発行：大塚好一



Yシャツで作った  
手縫いのマスク

### 〔日々の暮らし〕

町内会の清掃活動の回覧が回り、今年度初めて「組」のみなさんと顔を合わせる事ができました。接点が少ないので、たとえ一時間でもこうした行事は貴重です。

運動についてはランニングを週一〜二回続けています。キロ六分くらいのペースで、六〇分から九〇分程度走りまします。それと縄跳びも時々していますよ。どちらも運動効果が高いのですが、夏季は特に熱中症や脱水症状に注意が必要ですね。

さて、ゴキブリ後日談。ホイホイでは「いたちごっこ」であることが分かり、戦略変

更でコンバットによる根源対策にした途端、わが部屋での目撃がなくなりました。廊下や隣室には相変わらず出てくるので効果があるようです。

◇

ところで、襟元が擦り切れたワイシャツを活用してマスクを作りました。ミシンがないので一針一針手縫いです。無難に仕上がりましたが、この形は口に密着しないので具合が良いです。一人暮らしは何でも自分でするので、生活力が育まれますね！

◇

そして、奥歯がぐらついて時々腫れることもあったので、五月半ばから歯医者に通っています。原因は虫歯ではなく歯周病でした。メンテナンスと経過観察の結果、改善の様子が見られないとのこと、三〇日に抜歯しました。

また、三〇日には山口県などで梅雨が明け、猛暑との闘いが始まりました。

### 〔仕事はどうだい？〕

七月は月曜のみ四日間出勤しました。まずは、新商品の案内からスタートです。チラシを作り、得意先を訪問するなど、ようやく営業らしい仕事復活しました。とはいえず、再びコロナ感染者が増加しており、この先どうなるのか不安を抱えています。

### 〔自由気ままな歌日記〕

那須ナンバー指差し

長野から来たと

夫婦合点の山陰の町

(七月四日・道の駅)

宅配の荷を待つ我に首を振り

涼しき顔よ扇風機とは

(七月一二日)

今朝炊けた

米のうまさはひとしおに

甘み粘りの釣り合いが妙

(七月一六日)

先見えず

気重に過ごす日々の中

坊主頭を撫でて雨を聞く

(七月二九日・散髪)

### 〔あしあとノート〕

#### ◆コロナに負けるな！◆



酒造会社が企画  
したブレンド酒

萩地域の酒蔵が、地元産山田錦で造った純米大吟醸を持ち寄りブレンドした酒、その名も「コロナに負けるな！」が数量限定で発売され、入手に成功しました。参加したのは阿武の鶴・長門峡・長陽福娘・宝船・東洋美人・八千代を代表銘柄とする六蔵です。味味の違う酒同士ですが、調和がとれていて期待以上に飲みやすい酒でした。

◆堀庭園・津和野町◆  
客殿「楽山荘」と庭園  
実に去りがたい空間でした



客殿「楽山荘」と庭園  
実に去りがたい空間でした

代々銅山年寄役を世襲してきた堀氏の旧宅や庭園が公開されています。津和野の中心部から離れているため、なかなか足を延ばすことができないので、初めての訪問となりました。

主屋と主庭・客殿と庭園・和楽園の三ゾーンがあり、惹かれたのは客殿「楽山荘」と庭園部分です。往時の時の流れを体感するようで、ずっとここにいたいと思ってしまう風情ある空間でした。

#### ◆萩まちづくりセッション◆

市長が小学校区単位に向き、主要施策などを説明する「萩まちづくりセッション」が開催されました。

会場に到着すると、市長にいちばん近い右の最前列が空いていたので座し、目を合わせ説明にうなずきながら聞きました。萩市の取り組みの様子はもとより、私の住む地域に関する情報も得られ、有意義な時間でした。

終了後、市役所勤務で組内の人が市長に紹介してくれ、マスク着用のまま少しだけお話しできました。

## 〔続・あしあとノート〕

### ◆万倉の大岩郷・美祢市◆



山中に大岩がごろごろ転がる  
光景に圧倒されました

美祢市万倉(まぐら)には、国の天然記念物に指定された大岩郷(おおいわごう)があります。岩郷とは岩海のことです。大昔に地下深くでマグマが固まってできた深成岩が、地殻変動で地上近くに上昇し、やがて長い年月をかけて雨水等で削られていった結果、細かい土砂が流れて大岩だけが残った場所ということでした。

(解説板丸写しに近い。)

圧倒される光景ですが、なんと胸躍る場所で、岩の上をぴよんぴよん飛び移って楽しんでしまいました。

ちなみに、大岩郷は宇部市吉部(きべ)にもあり、同様の光景が見られます。この日は両方を訪れました。

### ◆海水浴場が開場される◆

白砂青松の菊ヶ浜。今年は今首都圏などで海水浴場の開設を取り止めたため心配していましたが、七月一日に開場となりました。サメ侵入防止ネットが設置され、ライフセーバーも駐在しています。これで子ども大人も安心して海を楽しむことができます。

一方、更衣所の設置がないので、今年はサーフパンツを履いたまま自転車に乗って出かけ、着替えずに帰ってくることにします。さっそく、開場初日に泳ぎました。海辺暮らしのなせる業です。

### ◆茂吉と人麿をたどる◆



三瓶山の斎藤茂吉歌碑  
文字は長男茂太氏の筆

### 三瓶山の

野にこもりたるこの沼を  
一たび見つつ二たびを見ぬ

茂吉

島根県石見地方は、万葉の歌人柿本人麿終焉の地として知られています。そして歌人斎藤茂吉は、人麿研究で幾度も足を運びました。

私はその足跡をさらにたどる人。この日は、大田市三辺温泉に建つ茂吉歌碑などを訪ねました。予習の成果もあり、地名や駅名を目にするだけでも想像が膨らみ、充実感が得られました。

これで島根県内の茂吉歌碑を巡り終えましたので、資料と照らし合わせながら、記録として整理していきます。



昨年、斎藤茂吉鴨山記念館を訪れた時の写真(美郷町)

萩市の世界遺産五か所をめぐる「リアル宝探し」が開催中です。謎解きをして、宝箱を見つけ、キーワードを集めて、プレゼントをもらいました！

## 〔萩に関する自由研究〕

### 『萩の五十音プロジェクト』

私が萩に移住したのは「萩が好きだから」という単純明快な理由によります。暮らし始めて一年が過ぎた頃、好きだという気持ちを形にして、私らしく萩を紹介する方法はないかと考えました。

そこで、自分自身の学習と組み合わせ、「萩の五十音プロジェクト」を企画しました。ささやかですが、萩の応援になればと、期待と願いを込めて取り組んでいきます。

### ◆プロジェクトの内容

一、萩市の史跡や自然など様々な魅力(みどころ)の中から、紹介したいものをピックアップしました。  
二、魅力を紹介するフレーズを考えることにしました。せっかくなので、言葉の調子を整えるために、①俳句等で親しみのある「五七五調」で作り、②最初の文字が「あゝわ」の五十音で始まるように工夫しました。

三、魅力は写真でも紹介することにし、私自身の学習も兼ね、現地取材をしながら撮影していきます。

四、フレーズと写真を見比べて楽しめるよう、かるたの読み札と取り札をイメージして編集し、簡潔な解説文を添えます。

五、フレーズ・写真・簡潔な解説文がそろえば一つ完成します。五十音(四四件)すべてが整ったら冊子に整え、「かるた」を制作したいと考えています。

### ◆進捗の状況など

萩は魅力(みどころ)がとても多いので、やがて数は倍になるかもしれないと思いますが、段階のフレーズ作りまで終わりました。そして、高校の恩師に作を送り、助言を求めて改良を進めているところです。今後は、第三・四段階の写真撮影と編集作業を並行して進めていきます。ただし、季節等の要件も重なってくるので、慌てず急がずですね。本紙上で、できた順に紹介していこうと思っています。